

豊岡市地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

・豊岡市の公共交通に関する課題や多様なニーズに対応し、人口減少や少子高齢化を踏まえた公共交通を軸としたまちづくりを進めるため、地域の関係者の連携・協働を深めるとともに、公共交通網の再編及び活性化に関する取組みを実施する。

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

- ・需要種別：乗合型の公共交通としての健全性を示す指標
「多様な主体の移動手段として利用されているか」
※特定の児童生徒の登下校のみの利用の場合は、スクールバス等へ転換
- ・最低需要基準
市営バス「イナカー」として運行する最低の需要基準（路線存続の基準）
※1日の最低運行回数3往復6便において1便あたり1人以上の乗車を維持
- ・市負担上限額（収支率）
※市負担上限額＝運行経費の20%を運賃収入で賄う

目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

（1）取組経緯

- ・運行の主体：豊岡市
- ・運行委託：全但バス（株）（赤石線・竹野海岸線・河野辺線）
（株）メルティバス（気比三原線・三方線・八代線）
- 人口：73,399人（令和6年4月1日現在・兵庫県推計人口）
- 高齢化率：37.8%（65歳以上・令和2年国勢調査）
- 面積：697.55km²
- 合併状況：平成17年4月に1市5町が合併
（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）
- 過疎地域等指定：過疎（一部）、辺地、振興山村、特定農山村、豪雪 ほか
- 系統数：18系統（内、国庫補助14系統）
- 運行回数：7,112回（令和6年度補助）※1往復で1回（内、補助対象6,324回）
- 会議開催状況：
令和6年6月25日 地域内フィーダー系統確保維持計画について
令和7年度運行計画の変更について協議・承認

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー系統補助事業	豊岡市	R 5.10～R 6.9	フ	6路線 18系統で運行

【種別】幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業、継策：運送継続計画策定事業、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
豊岡市有償旅客運送事業（チクタク）	豊岡市	R 5.10～R 6.9	4区域

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
地域内フィーダー系統補助事業	観光客の取り込み (季節限定シャトル便の運行)	1便当たり 1人超の乗車数維持

3. 具体的取組に対する評価

令和6年度利用実績

① 対前年比で一般利用が約3%増加した反面、スクール利用が約12%減少した。
一般利用は、新型コロナウイルス感染症の5類移行もあいまって、利用の緩やかな増加となり、地域住民の生活交通としての必要性を改めて確認した。

② 気比三原線、赤石線、竹野海岸線、三方線、八代線、河野辺線の6路線全てにおいて目標数値である1便あたり1人超の利用があった。

【一般利用者 1.95人（前年 1.87人）】

※路線接続の円滑化を図り、ダイヤ調整を実施。

4. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
利用状況に応じた減便による運行経費の削減により、運行欠損額は運行当初と比較して、減少傾向にあった一方、近年運行経費が増加傾向にある。事業継続には利用者の増加と一定の運賃収入の確保が必要不可欠であり、目標数値としている収支率 20%を達成するために、地域と共に更に努力する必要がある。	沿線人口が減少する中、一般利用者の増加には地域のニーズに合ったダイヤ設定などの取組みが必要不可欠である。引き続き、地域住民に向けての意見交換会などを開催し、公共交通の必要性や課題を共有すると同時に、地元住民のみならず、観光客の利便性を高めるダイヤの設定等、地域の特性に合った運行計画を検討する。

豊岡市地域公共交通会議（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
目標・効果について達成できなかった路線はあるものの、地域住民との意見交換を積極的に公共交通の維持に取り組んでいることは評価できる。 課題について住民と共有しながらも、引き続き利用促進及び利便向上を図るとともに、地域ニーズに応じた継続的な路線確保に努められたい。	一般利用者は増加傾向にあるものの、沿線の通園通学対象者の減少から利用者が減少した。 地域での機運醸成については、各地域コミュニティで住民説明会を行うことで、沿線住民全体での意識づけを図っている。 今後も地域と意見交換を重ね、効果的な事業実施に努めたい。	人口減少が進み、公共交通を取り巻く環境は今後も厳しさを増すことが予想される。 引き続き、路線・系統ごとの利用状況を評価するとともに、地域実情等に合った適正な運行計画の策定に努める。

2. アピールポイント、特に工夫した点など

- ・地域での機運醸成については、沿線住民と意見交換を行うため、各地域コミュニティ単位で意見交換会を行っている。
- ・R5 年 11 月から運転経歴証明書を提示した方に対する半額減免の適用を開始。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月10日

協議会名： 豊岡市地域公共交通会議

評価対象事業名： (1)地域公共交通確保維持事業 (2)地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
豊岡市((株)メルティバス) 気比三原線	城崎温泉駅 ～三原	前年度の運行実績(指標)に基づく運行計画案を作成し、沿線住民との意見交換会での意向を反映した運行計画により事業実施した。	A 概ね事業計画に位置づけられた内容で適切に実施することができた。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 利用者数3,442人(スクール利用除く) 1便あたり2.20人	城崎温泉駅周辺への通院・買物等の生活交通に加え、沿線の児童、生徒の通学利用がある系統であり、沿線住民が利用しやすい運行形態となるよう、沿線住民との意見交換を継続して実施する。
豊岡市(全但バス(株)) 赤石線	豊岡駅～赤石	前年度の運行実績(指標)に基づく運行計画案を作成し、沿線住民との意見交換会での意向を反映した運行ダイヤへ変更し事業を実施した。	A 概ね事業計画に位置づけられた内容で適切に実施することができた。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 利用者数2,170人 1便あたり1.48人	主に豊岡駅周辺への通院・買物に利用される生活交通である。沿線の高校生等にも利用しやすい運行ダイヤへ変更を行ったが、利便性が低下しているとの声が多く、再度ダイヤを変更する方向で沿線住民との意見交換を継続して実施する。なお、運行対象地域において路線バスが運行を再開する予定であり、路線バス運行開始後はフィーダー系統の運行を終了する。
豊岡市(全但バス(株)) 竹野海岸線 (田久日線・奥須井線)	相谷～田久日	前年度の運行実績(指標)に基づく運行計画案を作成し、沿線住民との意見交換会での意向を反映した運行計画により事業実施した。	A 概ね事業計画に位置づけられた内容で適切に実施することができた。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 利用者数2,245人(スクール利用除く) 1便あたり1.48人	通院・買物等の生活交通に加え、スクール利用がある系統であり、沿線住民が利用しやすい運行ダイヤとなるよう、引き続き沿線住民との意見交換を継続して実施する。
豊岡市((株)メルティバス) 三方線 (金谷線・知見観音寺線)	市役所日高庁舎 ～金谷・知見	前年度の運行実績(指標)に基づく運行計画案を作成し、沿線住民との意見交換会での意向を反映した運行計画により事業実施した。	A 概ね事業計画に位置づけられた内容で適切に実施することができた。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 利用者数4,407人 1便あたり3.01人	主に江原駅周辺への通院・買物に利用される生活交通であり、沿線住民が利用しやすい運行ダイヤとなるよう、引き続き沿線住民との意見交換を継続して実施する。
豊岡市((株)メルティバス) 八代線	市役所日高庁舎 ～小河江	前年度の運行実績(指標)に基づく運行計画案を作成し、沿線住民との意見交換会での意向を反映した運行計画により事業実施した。	A 概ね事業計画に位置づけられた内容で適切に実施することができた。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 利用者数2,187人 1便あたり1.49人	主に江原駅周辺への通院・買物に利用される生活交通であるが、地域の実態に合わせて延伸を計画。沿線住民が利用しやすい運行ダイヤとなるよう、引き続き沿線住民との意見交換を継続して実施する。
豊岡市(全但バス(株)) 河野辺線	合橋小学校 ～薬王寺	前年度の運行実績(指標)に基づく運行計画案を作成し、沿線住民との意見交換会での意向を反映した運行計画により事業実施した。	A 概ね事業計画に位置づけられた内容で適切に実施することができた。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 利用者数3,208人(スクール利用除く) 1便あたり2.05人	通院・買物等の生活交通に加え、スクール利用がある系統である。スクール利用と一般利用の双方のニーズを充足するダイヤ設定等について、沿線住民との意見交換を継続して実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月10日

協議会名：	豊岡市地域公共交通会議
評価対象事業名：	(1)地域公共交通確保維持事業 ②地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	豊岡市は兵庫県北東部に位置し、面積は697.55km²あるのに対し、人口は73,399人(令和6年4月1日現在・兵庫県推計人口)と少なく、面積の近い東京23区と比較して約0.7%程度の人口である。 人口減少や車社会の進展により、コミュニティバス等の公共交通利用者は減少の一途にあり、日常生活を営むうえで必要不可欠な地域公共交通の維持確保は極めて厳しい状況にある。 継続して地域住民のニーズを把握し、地域ごとの特性に合った適切な運行計画の策定に努める。また地域住民、運行事業者、行政などの関係者が適切な役割のもと、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持活性化を図り、過疎地域などの交通不便地域の移動手段の確保に努める。